

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 31 日作成)

委員会名	設計方法小委員会	主 査 名：門内輝行
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会	委員長名：服部岬生
設 置 期 間	2000 年 4 月 ~ 2004 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>建築・都市・環境の設計方法に関わる理論や実践を広く調査・収集・整理・体系化し、それらの成果を広く会員に敷衍させ、社会的状況に対応した設計の質的転換に貢献する活動を継続的に行うことを目的とする(2000~2004年度)。</p> <p>既存の設計組織の枠組みを超えた多種多様な設計主体のネットワークとそこでの創発的なインタラクションによって展開されるコラボレーションによる設計方法の仕組みを探求する(2000~2002年度)。</p> <p>人工工学や設計工学の分野で、設計プロセス、設計行為の仕組みに関する一般理論に関する研究が急速に展開され始めている。建築分野において設計理論研究を展開していく基盤を形成する(2003年度)。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>門内輝行(主査・早稲田大学) 日色真帆(幹事・愛知淑徳大学) 山田哲弥(幹事・清水建設) 奥田宗幸(東京理科大学) 北沢 猛(東京大学) 田浦俊春(神戸大学) 近角真一(集工舎) 仲 隆介(京都工芸繊維大学) 難波和彦(東京大学) 増村昭二(日本設計) 宮城俊作(奈良女子大学) 本江正茂(宮城大学) 両角光男(熊本大学) 吉田邦彦(愛知淑徳大学) 渡邊朗子(慶應義塾大学)</p>	
設置 WG (WG 名:目的)	<p>設計プロセス研究 WG: 設計プロセス研究における最先端技術や理論の把握</p> <p>設計支援システム WG: 設計支援システムの高度化の方向性の把握</p>	
2003 年度予算	22,9000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2003 年 4 月 25 日、5 月 22 日、6 月 20 日、7 月 24 日、9 月 17 日、11 月 7 日、12 月 12 日、2004 年 1 月 23 日、2 月 27 日の 9 回開催。いずれも毎回 7~12 名程度が出席。
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>第 4 回~第 6 回設計方法シンポジウムにおいて理論研究と事例収集を進めてきた「コラボレーションによる創発的デザイン」に関する調査研究の成果を単行本にとりまとめる作業を推進した(初稿が出た段階である)。</p> <p>2003 年度に、設計プロセス研究 WG、設計支援システム WG を設置し、それぞれの WG の活動計画を立案した。</p> <p>日本機械学会、精密工学会、日本設計工学会、日本デザイン学会と連携して、Design Symposium 2004 の開催の準備を進めた。また、日本学術会議人工物設計・生産研究連絡委員会設計工学専門委員会とも連携し、「21 世紀における人工物設計・生産のためのデザインビジョン提言」をふまえた調査研究活動のプログラムを作成した。</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>2003 年度内に単行本『コラボレーションによるデザイン』を彰国社から刊行する予定であったが、初稿段階までとなった(2004 年度前半には刊行の予定)。</p> <p>2 つの WG を設置し、設計方法研究を推進する組織体制を整備した。</p> <p>設計方法研究を進めている他の学術団体との連携を深めることができた。</p>
その他評価すべき事項	日本建築学会の HP 上に小委員会の HP(ホームページ)を開設した。